

開催地名	愛媛県 伊予市
開催日時	令和6年11月14日(木) 10:00~11:30
開催場所	伊予市役所4階大会議室
語り部	近藤 恒史(千葉県茂原市)
参加者	伊予市役所職員25人、伊予市議会議員3人
開催経緯	当市では、大規模災害の経験が少なく災害経験に乏しい職員が多いため、本部と現場の各担当との意思疎通がスムーズに出来ていないことが課題となっている。そこで、本部から見た災害対応の考え方や経験則を講話いただき、本部と現場の連携強化の参考としたい。
内容	<p>■はじめに 講演者の近藤恒史氏は、元陸上自衛官として全国各地での災害対応に従事し、退官後は行政職員として防災対策を推進してきた。これまでに新潟地震、東日本大震災、熊本地震、さらには2024年の能登半島地震といった大規模災害の現場で対応を行い、その経験をもとに被災時の具体的な対応や課題について語った。 今回の講演では、千葉県茂原市の防災対策を中心に、昨年9月の豪雨災害や2024年元日の能登半島地震の教訓を紹介し、近年の気象変動の影響や自治体・住民の防災対応の在り方について考える機会を提供した。</p> <p>■あの日のこと 近藤氏は、長年の経験から、災害は想定外の規模で発生することが多く、常に最大級の被害を想定して備えることの重要性を強調した。特に昨年9月の千葉県茂原市の豪雨災害では、線状降水帯による局地的な集中豪雨が発生し、市街地が浸水した。一宮川水系の氾濫の様子は、市役所の4階から撮影された写真でも鮮明に記録されており、都市部での水害リスクの深刻さを改めて認識させるものであった。 また、2024年1月1日に発生した能登半島地震では、家屋の倒壊や道路の寸断、集落の孤立といった深刻な被害が生じた。その後の9月にも同地域で線状降水帯による豪雨災害が発生し、被災地の状況は一層厳しさを増していた。こうした事例を踏まえ、災害対応における行政と関係機関の迅速な対応の重要性を強調した。</p> <p>■その後のこと 茂原市の豪雨災害では、予想を上回る降水量により、市内の河川が氾濫し、避難所の開設が進められた。最大で約380人が避難し、特にトイレや食料の確保が大きな課題となった。この経験から、避難所運営の迅速化と環境整備の必要性が再認識された。 一方、能登半島地震では、千葉県から応援職員として派遣され、避難所運営や被害調査を担当した。特に被害状況の調査や災害廃棄物の処理には多くの人員が必要であり、全国規模での応援体制の整備が不可欠であることが明らかとなった。 また、物資の供給に関しても課題が浮き彫りとなった。プッシュ型支援(必要な物資を大量に送る方式)では、物流の混乱が生じることが多く、事前に自治体ごとの調達スキームを確立しておくことが不可欠であることが示された。</p> <p>■まとめ 近藤氏は、これらの経験を踏まえ、今後の防災対策として以下の点が重要であると述べた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.災害リスクの把握と早期避難 自宅や職場の災害リスクを確認し、避難計画を事前に策定することが不可欠である。特に、浸水や土砂災害の危険地域では迅速な避難行動が求められる。 2.避難所の環境整備 避難生活の質を向上させるために、トイレや衛生環境の整備、物資の管理体制の強化が必要となる。また、女性や高齢者、障がい者の視点を取り入れた避難所運営を行うことで、より多様なニーズに対応できる環境を整えることが求められる。 3.自治体の防災計画の見直し 千葉県では、被害調査や応急対応を円滑に進めるための「大規模災害時受援計画」を策定しており、こうした取り組みを全国の自治体でも進めるべきである。特に、他県との連携を強化し、

被災地への迅速な支援が可能となる体制を整えることが重要である。

4.住民による防災意識の向上

災害は行政だけでは対応しきれないため、住民同士の助け合い(共助)が重要となる。地域の防災訓練への参加を促し、日常の備えを徹底することで、実際の災害時に素早く適切な対応が取れるようになる。

5.物資供給の課題と改善

東日本大震災や熊本地震では、物流の混乱により必要な物資が適切に届かなかった事例があった。能登半島地震では、自治体主体の調達スキームに移行することで効率化が進められた。今後は、状況に応じて「物より金」の支援を活用することで、より迅速で適切な支援が可能になると考えられる。

最後に、近藤氏は「防災対策は行政だけではなく、一人ひとりが意識を持つことが最も大切だ」と締めくくった。特に、日常の備えや地域の防災訓練への参加が、いざという時に命を守る鍵となることを強調した。



開催地より

大災害時には各課の連携が大事であると理解していたが、実災害の対応を経験している語り部の体験談から、改めて日頃から連携、訓練を行っていくことの大切さについて痛感した。本日の講義を今後の防災活動に活かしていきたいと思う。